

精進湖:「東洋のスイス」

精進湖は、富士五湖の中ではダントツに最も小さい湖です。その表面積はわずか 0.5 平方 km で、また水深も非常に浅いため、その貯水量は西湖のわずか 10 分の 1 です。それでもなお、精進湖の非常に透明度の高い水、のどかな環境と入り組んだ湖岸線により、この湖の景色はこの地域で最も思い出に残るもののひとつとなっています。湖畔の開発ペースが比較的ゆっくりとしたものだったおかげで、風景のほとんどが元の状態で残っており、人工建築物によって景観が壊されているということもありません。

夕暮れ時になると、夕日に染まる「赤富士」、また、山頂が冠雪している時には「紅富士」をカメラに収めようとしてこの湖の岸边にカメラマンが集まってきます。近くのパノラマ台からは、ハイキングの苦しさを味わうに十分値する景色を楽しむことができます。

精進湖からの景色で最も有名なもののひとつに「子抱き富士」があります。北岸から富士山を見ると、小さく、より近い大室山を富士山がまるで母親が子どもを抱きしめているかのように見えます。より大きい富士山の麓の斜面の側噴火により生まれた噴石丘だということからも、ある意味では、大室は本当に富士山の「子ども」なのです。

外国人に人気の観光地

1895 年、後に日本に帰化したイギリス人男性ハリー・スチュアート・ホイットワースは、精進湖の美しさに魅入られて湖の景色を見渡せる欧風のホテルを開業しました。ホイットワースは、この地域を「東洋のスイス」と呼び、ホイットワースのホテルは富士五湖周辺初の外国人向けの観光名所となりました。

その穏やかな環境で、精進湖は特に釣り愛好家の中で人気の湖となっています。春には、フナが釣れますが、秋からはグルメお気に入りのワカサギを釣ることができます。